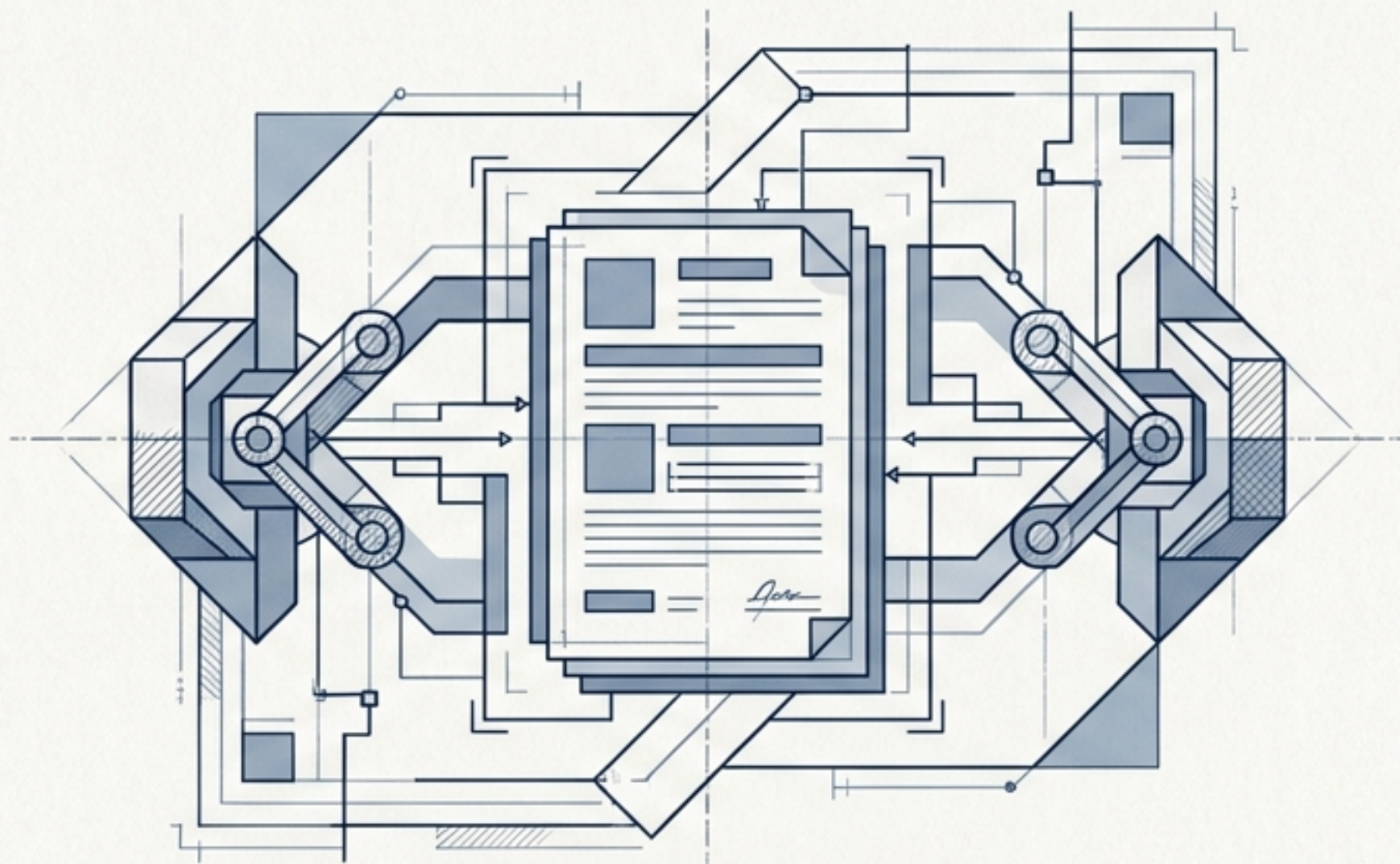


知財ライセンス業務におけるAI自律交渉の現実と設計図

リーガルテックの最前線「エージェント間交渉」の実力と、
法務・知財部門が今すぐ着手すべきデータ構造化のロードマップ。



[STATUS: CONFIDENTIAL]

[FRAMEWORK: STRATEGIC REALITY CHECK]

[BASED ON: US LEGAL TECH TRENDS 2026]

● The Reality

AI同士の契約交渉はすでに実証段階を完了。

Luminanceによる100%自律型NDA交渉モデルが2026年に企業向けに展開開始。

● The Gap

しかし、完全自律交渉は「標準契約 (NDA等)」に留まる。

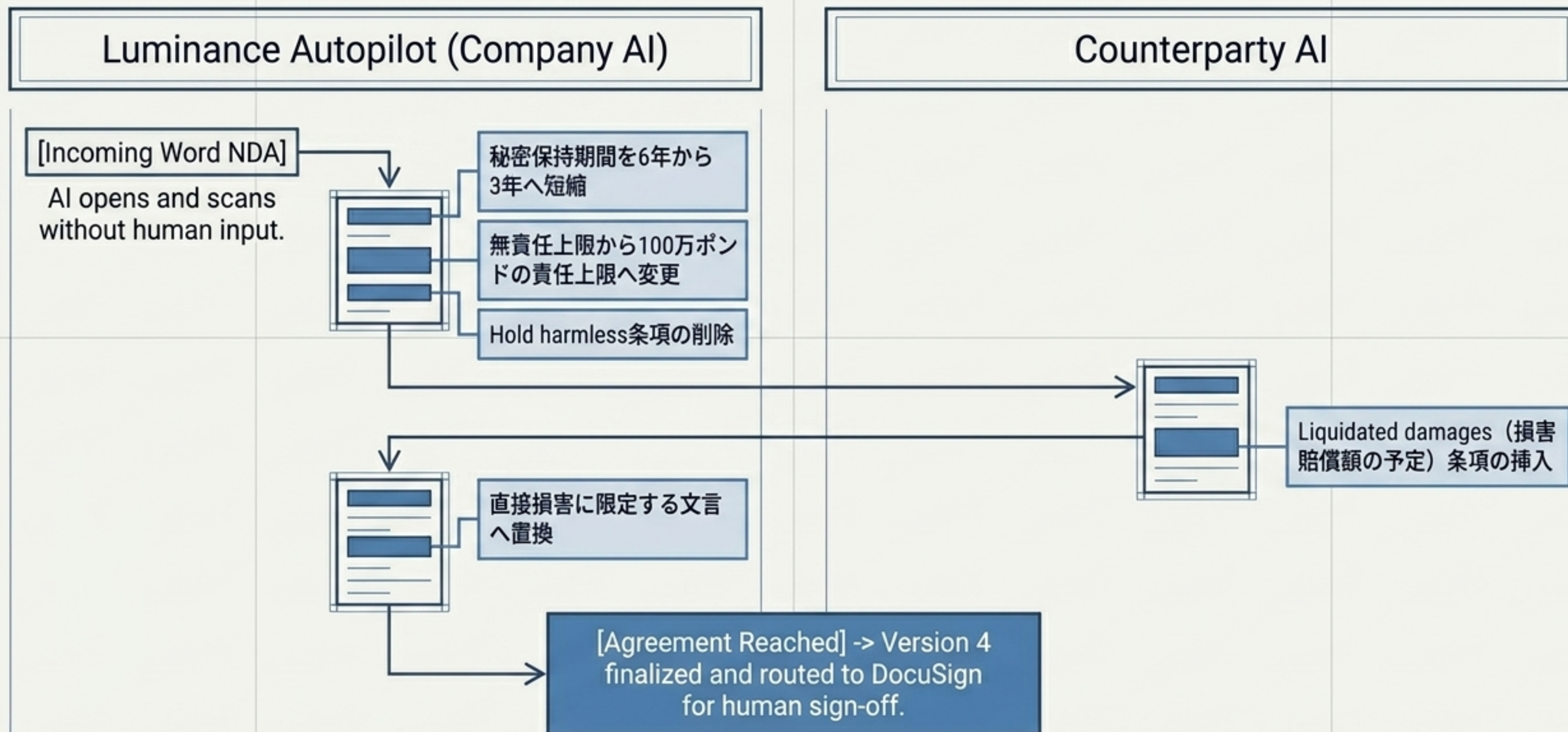
複雑な権利と事業戦略が絡む「知財ライセンス契約」の自律締結の実例は未確認。

● The Verdict

法務・知財部門の次なる一手はAIツールへの「丸投げ」ではない。

AIを機能させるための自社固有の「交渉基準 (プレイブック)」のデータ化・構造化である。

実証済みの自律交渉：LuminanceによるNDA「Ping-Pong」モデル

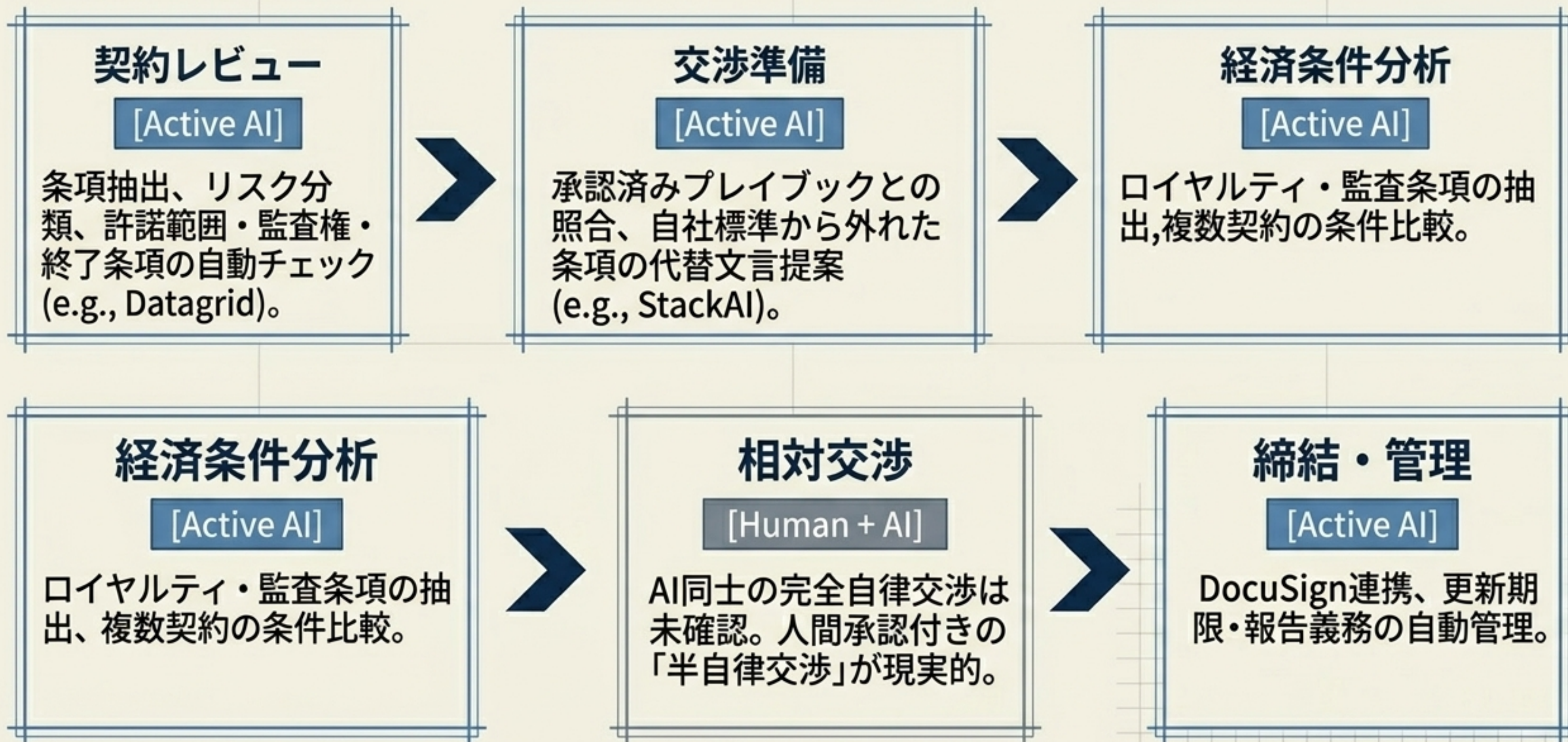


Zero human intervention required during the negotiation phase.

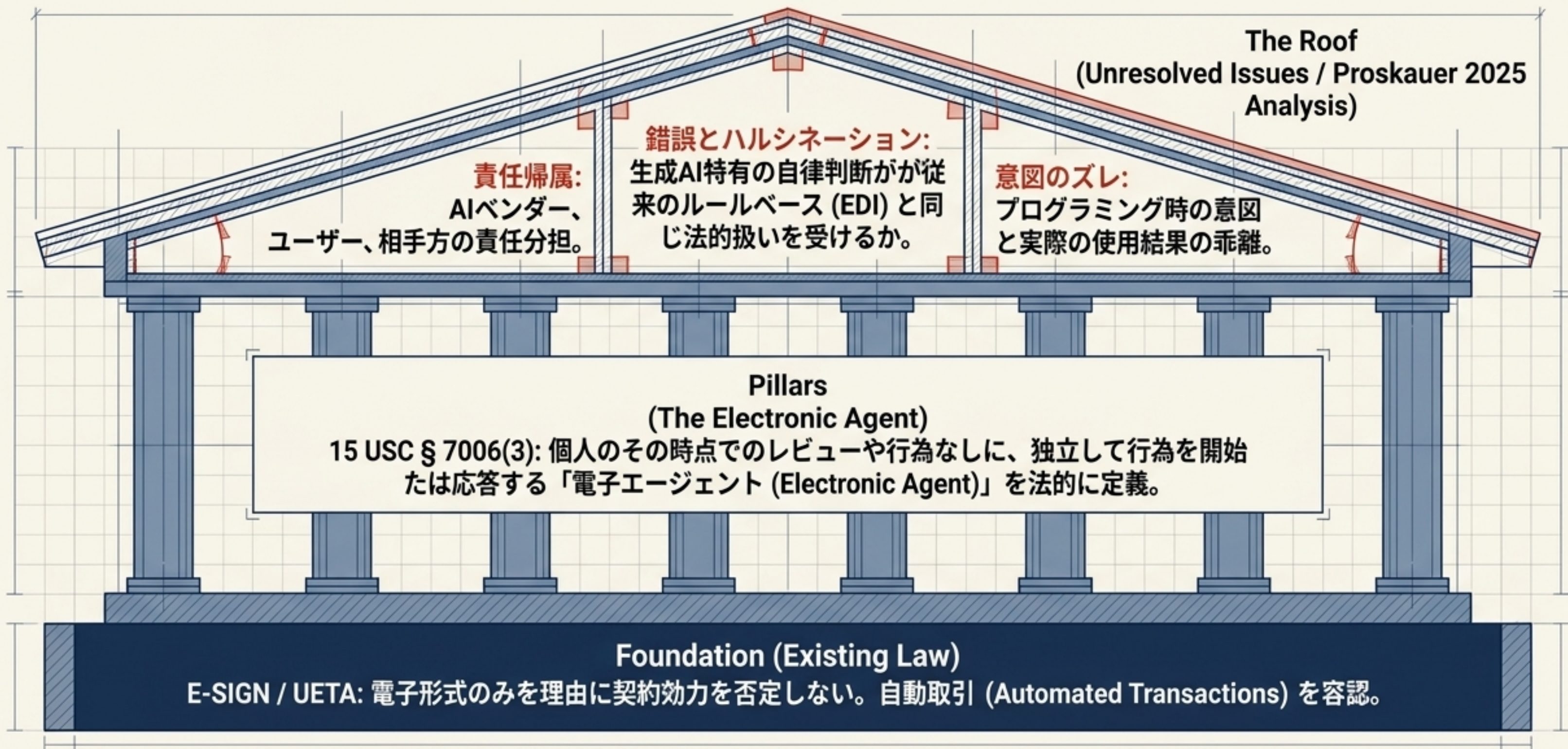
複雑性の壁：標準契約（NDA）と知財ライセンスの構造的差異

	NDA	知財ライセンス
対象契約の性質 (Nature of Contract)	形式的・標準的。 定型化されたリスク管理。	事業戦略の核心。権利範囲、実施許諾地域、独占性、FRAND、既存係争、など多岐にわたる複雑性。
AIの役割 (Role of AI)	Luminance等による条項の自動修正と自律的な往復交渉（Agent-to-Agent）。	StackAI / Datagrid等による条件抽出、プレイブック比較、リスク検出などの「前後工程」支援。
必要な人間の関与 (Human Involvement)	最終的なサインオフ（署名）のみ。	交渉戦略の判断、高度な専門性に基づくリスク評価と承認が不可欠。
リスクレベル (Risk Level)	低～中。	極めて高い（独占禁止法、事業停止リスク等）。

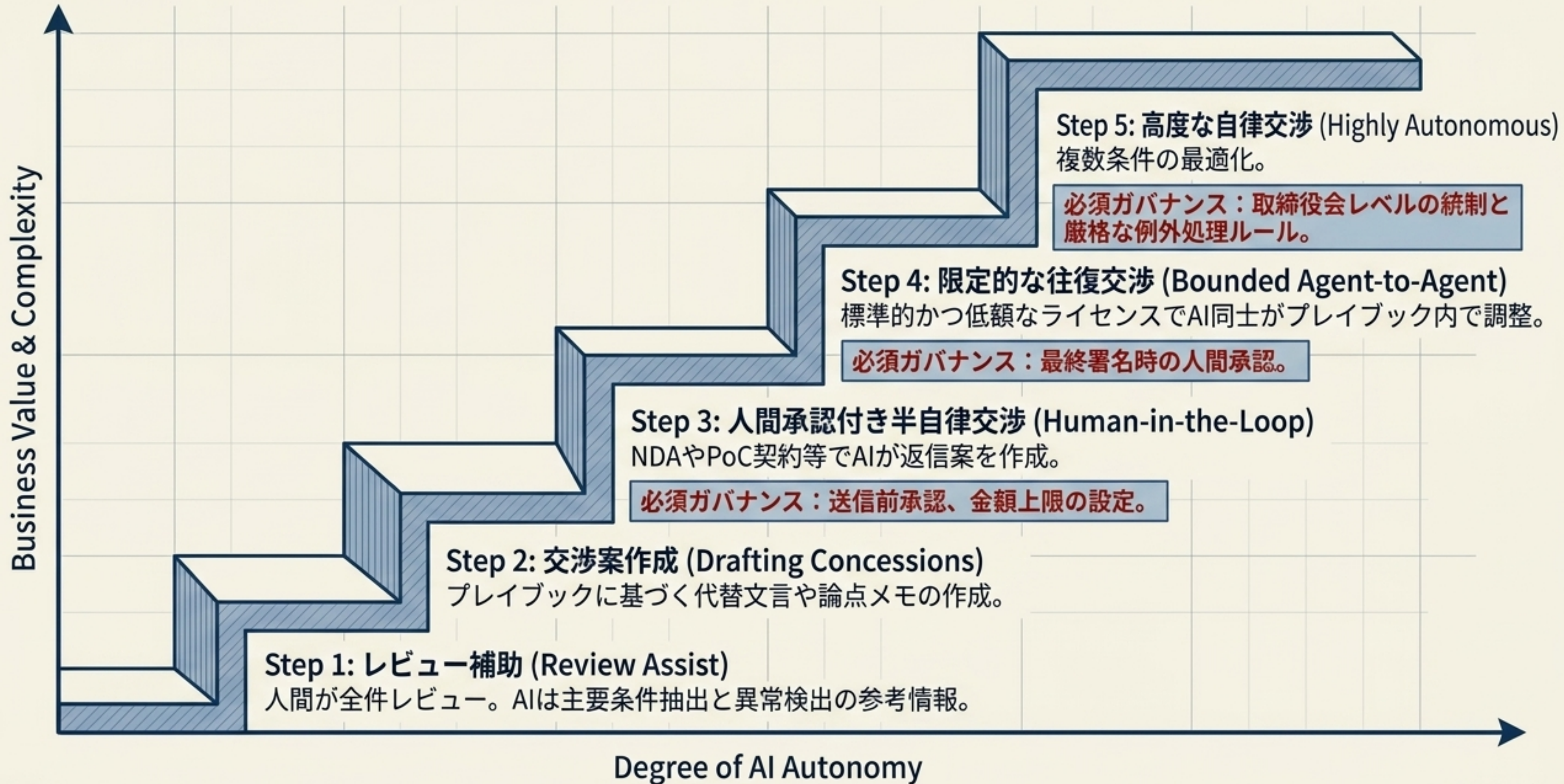
知財ライセンス実務における現在のAI実装状況



AIエージェント間契約を支える米国法のアーキテクチャと残された課題



知財ライセンス部門のための5段階AI導入ロードマップ



システムへの安全装置：AI交渉に潜む重大リスクと実務的セーフガード

[!] 権限逸脱 (Authority Override) : AIが想定外の譲歩や不利な条件合意を行う。



Safeguard: 契約種別、金額、条項ごとの「絶対的交渉上限」をシステムにハードコードする。

[!] 秘密情報流出 (Confidentiality Leak) : 未公開の特許情報や技術詳細が外部AIへ送信される。



Safeguard: オンプレミス環境の利用、専用環境構築、DPA締結、厳格なアクセス制御の実装。

[!] 独禁法・競争法違反 (Antitrust Violations) : 価格操作、市場分割、SEP/FRAND交渉での不適切な応答。



Safeguard: 競争法や輸出規制に関する「禁止ルール (Red Lines)」をプロンプト・システムレベルで組み込む。

[!] 証拠性と説明不能性 (Black Box Logic) : なぜその条項で妥結したのか、後から立証できない。

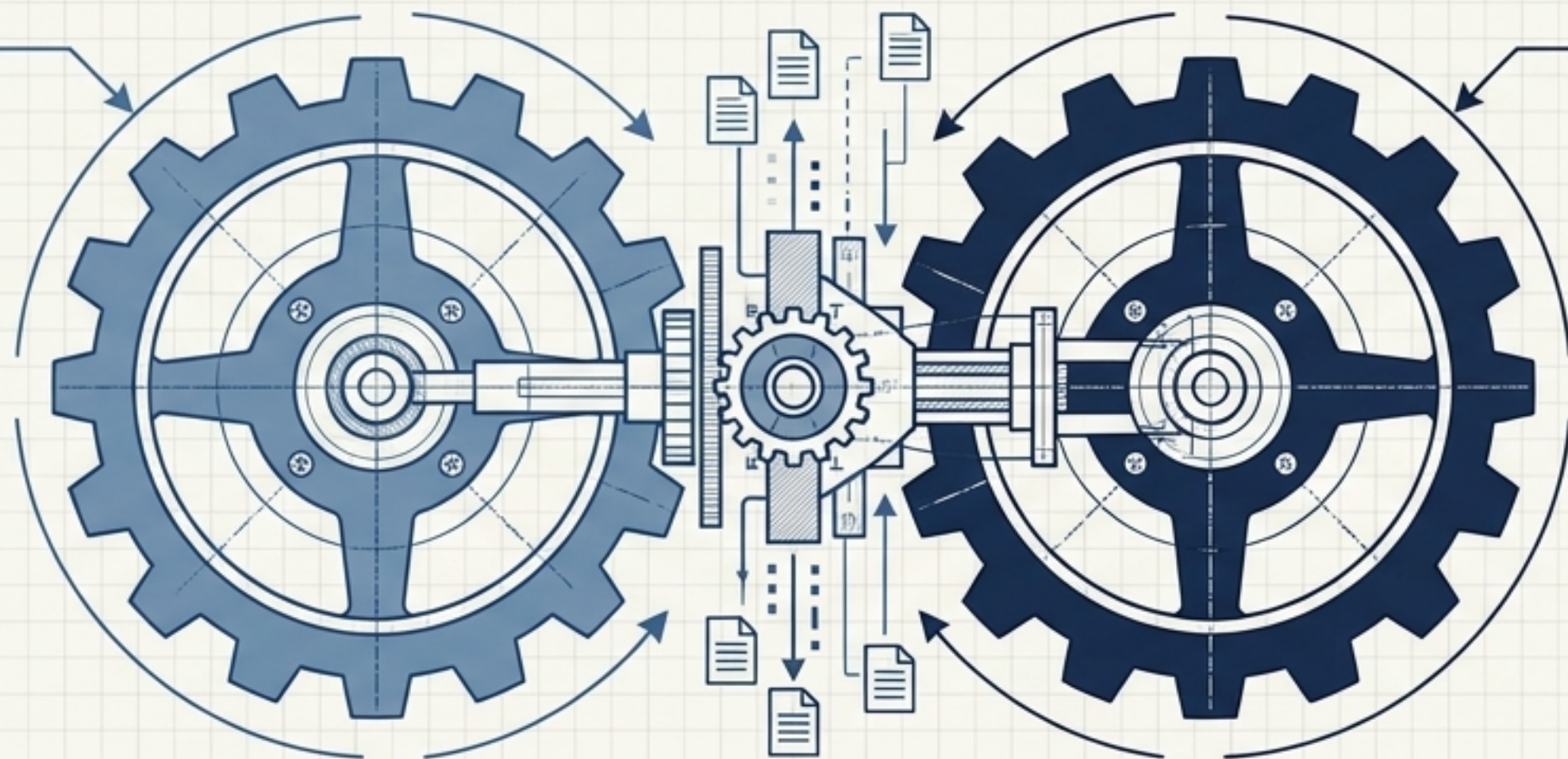


Safeguard: 全ドラフト、プロンプト、AIの判断理由、人間の承認履歴を監査ログとして完全保存する。

結論：未来のアーキテクチャは「自社データの構造化」から始まる

進化するAIツール

- Luminance / StackAI / Datagrid
- Agent-to-Agent Negotiation
- E-SIGN / UETAに基づく法的インフラ



知財・法務部門が今準備すべきデータ

- 契約プレイブックの言語化: 自社の標準条項と代替案の明確化。
- 許容譲歩範囲の定義: どこまでなら譲れるか（レッドライン）の数値化。
- 承認権限マトリクス: 誰がどのリスクレベルを承認するかのルール化。

AIへの「丸投げ」は機能しない。知財ライセンスの自律交渉に向けた第一歩は、高度なツールを導入することではなく、人間の頭脳にある「交渉戦略」をAIが理解できる構造化データへと変換することである。低リスクなNDAでの試行を開始しつつ、自社専用のプレイブック構築を急務とすべきである。